

会長挨拶

皆様、おはようございます。

会長の山中でございます。開会にあたりまして、一言、ご挨拶申し上げます。本日は、たくさんの方の皆様に出席いただきまして、誠にありがとうございます。昨年度の総会は、全国保健所長会設立七十周年の記念の年であり、記念事業の一環として開催いたしました。また、年度末には、七十周年記念誌や記念切手の発行など、会員の皆様には大変ご協力をいただきましたことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、ご来賓の厚生労働省健康局長 宇都宮啓様、福島県知事 内堀雅雄様、福島県医師会会長 佐藤武寿長様、並びに、ご講演を賜ります健康局健康課長 武井貞治様には、ご多忙の中、ご臨席賜り、感謝申し上げます。また、全国保健所長会の活動にご理解とご支援を賜り、重ねてお礼申し上げますとともに、今後とも、全国保健所長会へのご支援を賜りますようどうぞよろしく願いいたします。

さて、本日、この場で、永年にわたり保健所に勤務され、その功績により全国保健所長会会長表彰を受けられる皆様には、心よりお祝い申し上げます。私たち、保健所長にとりまして皆様のような職員と一緒に働けることは喜びでもあります。これからも、健康に留意され、職責の遂行や後進の育成等、なお一層、ご活躍されますことを期待しております。

ここ福島県は、東日本大震災による甚大な被害に加えて、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、七年半以上たった今現在でも三万三千人を超える方々が、住み慣れた故郷を離れ、県外での避難生活を余儀なくされているそうです。

事故後二か月たった五月に、東北の保健所長が福島県に集まる機会がありました。憤りや不安などいろいろな思いのある中、ある保健所長さんが涙を浮かべながら、このような大事故で放射線による影響への不安が大きい中、職員が一人もかけることなく、住民への対応をしてくれていることに感謝しているとおっしゃった言葉が忘れられません。東北にいと、福島県のニュースに触れる機会が多いのですが、新酒鑑評会六年連続日本一など、明るいニュースもたくさんあります。福島県の一日も早い復興を心より願っております。

さて、全国保健所長会では、五つの担当理事会と地域保健充実強化、健康危機管理、人材確保・育成に関する三つの委員会、さらには、日本公衆衛生協会のご協力のもと、今年度は六つの地域保健総合推進事業を通して、様々な活動を行っております。詳細には、こののち、各常務担当理事や委員長より、説明がありますが、とりわけ、委員会と地域保健総合推進事業はシンクタンクとしての委員会と実践活動を主体に行っている推進事業とが密接に連携を図りながら、我が国の公衆衛生の課題や保健所が抱える課題について調査、検討、提案等

の活動を行っております。

その中でいくつかの課題について触れたいと思います。少子高齢化や人口減社会に見合う社会保障制度改革の流れの中で、圏域における将来的な医療提供体制の在り方の検討や調整の場の設置運営という地域医療構想の推進、および、高齢者に限らず、精神障害や難病等の病気を持っていたとしても、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域包括ケアシステムの構築は、保健所が担う大きな役割です。保健所の設置主体によって、役割の重さに違いはありますが、県型、市型保健所にかかわらず、それぞれの地域に合った取り組みが望まれます。

また、東日本大震災後から検討を重ねてきた災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）が構想から七年を経て、制度化され、七月の西日本豪雨災害には被災地に初めて派遣されました。後程、会員協議でもご報告をいただきますが、DHEAT は、スタートしたばかりであり、まだまだ整理すべき諸課題はあるものの、経験を一つ一つ積み上げ、DMAT 等災害対応関係者の理解も得ながら、着実に成果を上げていくことが肝心と考えます。同時に、皆様には、それぞれの保健所における災害時の、いわゆる受援体制の構築に向けた対応につきましても具体的にご検討くださいますようお願いいたします。加えて、国際化や流通の広域化により、感染症や食中毒の発生も広域化してきており、今年六月には、食品衛生法の一部を改正する法律が公布され、発生時の広域連携がより促進されることとなります。また、東京オリ・パラに向けた、感染症サーベイランスの見直しの動きもありますことから、なお一層、平時からの保健所間で格差のない対応が求められており、今後とも、各種研修会や情報交換の場等を通して、保健所間の連携の強化やスキルの向上を図っていく必要があります。

さらに、公衆衛生医師の確保・育成は重要な課題です。平成二十九年度に社会医学系専門医制度がスタートしましたが、指導医である保健所長としても、研修会等を通じて、指導医としての研鑽を積み、より充実した研修の機会を提供するなどにより、この制度が将来の公衆衛生医師の確保につながることを期待しております。一方、公衆衛生の現場でのやりがいや使命感など、私たち保健所長が医学生や若い医師たちに直接伝えるようなことも地道ではありますが、継続して行うべき活動と考えており、それぞれの地域におかれましても、地元の大学や関係機関等との連携の下、積極的に取り組んでくださいますようお願いいたします。

おわりに、総会開催のため、様々なご準備やご配慮をいただきました福島県北保健所の加藤副会長をはじめ、福島県の事務局関係皆様に深く感謝申し上げます、開会のご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞ、よろしく願いいたします。